

# ナショナル・トラストの意義

環境保全や野生生物の保護を目的として土地を取得し、永続的に管理していく「ナショナル・トラスト運動」は、国内各地で取り組みが進められています。この運動の意義について、(公社)日本ナショナル・トラスト協会に取材しました(写真は同協会提供)。

## 希少生物を守る選択

ナショナル・トラスト 開発から守り、半永久ト運動は、産業革命がすすむ19世紀末の英国で始まりました。自然環境や歴史的建造物を乱れ、寄付や遺贈を受け



日本ナショナル・トラスト協会提供の森の風景



絶滅の危機に瀕しているアマミノクロウサギ(撮影: 菅田守)



## 環境

山林を守ったのがナショナル・トラスト運動の最初の取り組みです。日本は国土の7割以上が森林を有する。この森林を保護し、自然の森や草原は2割にとどまっています。さらに、法律などで保護区に指定されている土地は、国土の5%にすぎません。美しい自然の多くは、いつ失われてしまふか分からない状況にあります。行政だけでは守れない自然環境保全するため、現在、国内50以上の団体がナショナル・トラスト運動に取り組み、約9000ヶ所を守っています。

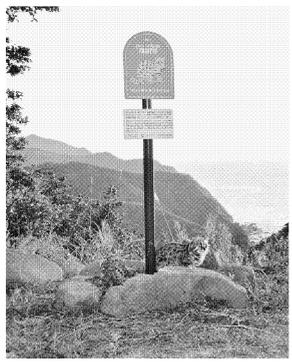
その全国ネットワークを担う組織として20年前に発足したのが、日本ナショナル・トラスト協会です。

同協会は現在、全国に18カ所の土地を取得し、管理にあたっています。最近では、今年1月に奄美大島の西部に、1000畝の森林を取得しました。島の面積の8割を森林が占めていますが、その4割が民有地で、開発の進展とともに希少生物

## 保全のために土地を取得し、管理

が絶滅してしまう恐れがある。判断したためです。

奄美大島は、ウサギの中で最も原始的な形態を残しているアマミノクロウサギが生息しています。推定3000頭。他の地域では絶滅した200頭前後が確認されているのみで、特別天然記念物に指定されています。ところが、ハブ退治のために導入されたマングースに生食され、さらに道路や



長崎県・対馬のツシマヤマメコ保護区に掲示された看板と、その下で休息するヤマメコ(撮影: 山村辰美)

## 最初に動き 機運を高める

同協会の若山義則総務部長は、「アマミノクロウサギのすむ森林は、将来にわたり自然のままに残すことが必要です。そのうえで、地元振興にも貢献したい」と語ります。この土地の購入に充てる寄付金を募るキャンペーンを、6月末まで実施しているそう。

今年2月には、同協会が主催し、国内各地のナショナル・トラスト

マシノウサギが生息しています。推定3000頭。他の地域では絶滅した200頭前後が確認されているのみで、特別天然記念物に指定されています。ところが、ハブ退治のために導入されたマングースに生食され、さらに道路や

ブル場などの開発による破壊が多数発生し、環境が2009年に非常事態を宣言しています。

また、奄美大島は鹿児島県の県鳥ルリカケス、ムラサキオカヤドリカドリなど、多くの希少生物の生息地でもあります。

機を深めている状況を紹介しました。

北海道の斜里町で、かつての開拓跡地を守り、原生の森を取り戻す「しれとこ100平方メートル運動推進本部」の榎岡隆会長、斜里町長は、「私たちが町は農業や林業、観光など自然の恵みで生きています。自然環境の破壊は、生活の基盤を失うことを意味します。この運動の重要性を語りました。

長崎県の対馬で、絶滅が危ぶまれるツシマ

ヤマメコの保護に尽力する「ツシマヤマメコを守る会」の山村辰美会長は、10から100平方メートルの運動を推進する「しれとこ100平方メートル運動推進本部」の榎岡隆会長、斜里町長は、「私たちが町は農業や林業、観光など自然の恵みで生きています。自然環境の破壊は、生活の基盤を失うことを意味します。この運動の重要性を語りました。

長崎県の対馬で、絶滅が危ぶまれるツシマ

国で森の保全に取り組む「1000のふるさと基金」の狩野事務局長は、20年以上におよぶ活動を振り返り、「私たちの市民団体にできることは、最初に動いて、多くの方を巻き込み、保全機運を高めること」と語り、行政や企業、地元自治会、自然保護団体と連

国で森の保全に取り組む「1000のふるさと基金」の狩野事務局長は、20年以上におよぶ活動を振り返り、「私たちの市民団体にできることは、最初に動いて、多くの方を巻き込み、保全機運を高めること」と語り、行政や企業、地元自治会、自然保護団体と連

国で森の保全に取り組む「1000のふるさと基金」の狩野事務局長は、20年以上におよぶ活動を振り返り、「私たちの市民団体にできることは、最初に動いて、多くの方を巻き込み、保全機運を高めること」と語り、行政や企業、地元自治会、自然保護団体と連